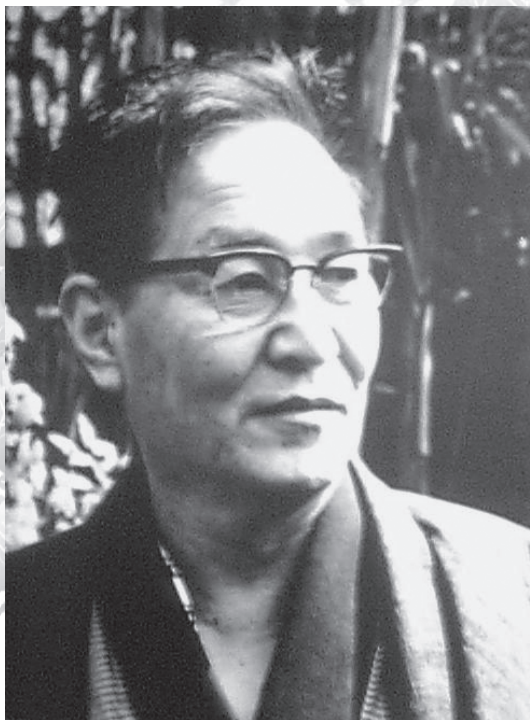


没50周年

小説家

尾崎士郎

OZAKI SHIRO



「多くの人を愛し、多くの人に愛され、吐露する男。それが尾崎士郎君である」 武者小路実篤



平成26年2月19日、吉良町出身の小説家・尾崎士郎が亡くなって50年が経過します。これを機に、市では尾崎士郎没50周年記念事業実行委員会と協働で、さまざまな記念行事を開催します。今号では、尾崎士郎の66年の人生を振り返るとともに、尾崎士郎にちなんだ記念行事を紹介します。

生誕〜学生時代

明治31年2月5日に幡豆郡横須賀町（現吉良町上横須賀）の裕福な商家「辰巳屋」の三男として誕生。当時、自宅に横須賀郵便局が開設され、父嘉三郎が局長を務めていた。横須賀尋常小学校、県立第二中学校（現岡崎高校）を卒業し、早稲田大学高等予科に進学。雄弁会に所属し「早稲田騒動」の中心メンバーとして活躍する一方、在学中から社会主義者の堺利彦、山川均らの「売文社」に入社した。20歳の時、郵便局長を継いだ長兄の自殺により、実家が没落。月謝滞納などで大学を除籍となった。

作家活動開始

大正12年、新聞の懸賞小説で第二等に入選し、本格的な作家活動を開始した。また、この年には作家の宇野千代と結婚し、東京府荏原郡馬込村（現大田区馬込）に転居。仲間の作家たちを呼び寄せ、後に「馬込文

士村」と呼ばれた。

『人生劇場』の大ヒット

昭和8年、都新聞で『人生劇場（青春篇）』を連載、川端康成から絶賛され、37歳で一躍ベストセラー作家となる。『人生劇場』は全8編、26年間にわたって書きつづられた士郎の自伝的長編小説で、映画や舞台芝居などでも繰り返し上演された。また、歴史小説や故郷吉良を題材とした作品など数多くの著作を残した。

30年ぶりの帰郷

昭和22年、30年ぶりに横須賀村に帰郷し、村民の大歓迎を受け感激する。地元名士や同級生らが士郎の後援会「瓢山会」を組織し、以後度々吉良を訪れる。

飾らない率直な人柄で幅広い交友関係を持ち、酒と相撲を愛した士郎であったが、再発した腸がんによって、昭和39年2月に66年の生涯を終えた。

尾崎士郎没50周年記念行事

尾崎士郎没50周年記念事業実行委員会による記念行事

漫画『人生劇場』連載中

尾崎士郎の名作「人生劇場」が漫画でよみがえる。ホームページで連載中です。

■問合せ 尾崎士郎没50周年記念事業実行委員会
☎090・1741・6580



しろう君

そのほかの催しはこちらをご覧ください。
尾崎士郎没50周年記念事業実行委員会ホームページアドレス
<http://ameblo.jp/ozaki50th/>

「尾崎士郎50年」 検索

「尾崎士郎賞」

旧吉良町で25年間にわたり行ってきた「尾崎士郎作文賞」を発展させ「尾崎士郎賞」を創設します。

■問合せ 文化振興課文化財担当 ☎56・2459
／岩瀬文庫内



『人生劇場』青春編執筆当時の士郎

「尾崎士郎賞」 検索

尾崎士郎記念館企画展 没50周年記念「尾崎士郎記念館名品展」

■期間 9月26日(木)～26年3月2日(日)
■場所 尾崎士郎記念館(吉良町) ☎32・4646
■問合せ 尾崎士郎記念館
※9月23日までは「小説『空想部落』と馬込文士村」展を開催しています。

尾崎士郎記念館



◆開館時間 午前9時～午後5時
◆入館料 高校生以上300円
※中学生以下は無料。

市制60周年記念式典、尾崎士郎没50周年記念講演 石坂浩二講演会

昭和46年に放映されたテレビドラマ「人生劇場」で、主人公の青成瓢吉を演じた俳優の石坂浩二氏の講演会です。

■日時 12月15日(日) 午後(予定)
■場所 文化会館大ホール
■問合せ 企画政策課企画担当 ☎65・2154

岩瀬文庫特別展 尾崎士郎没50周年記念「『人生劇場』中川一政挿絵展」

画家・中川一政が描いた『人生劇場』の挿絵原画を中心に展示します。
■期間 9月7日(土)～11月10日(日)
■場所 岩瀬文庫企画展示室(2階)
■問合せ 文化振興課文化財担当 ☎56・2459
／岩瀬文庫内



『人生劇場 青春篇』普及版 表紙原画

名鉄沿線ハイキング

名鉄西尾駅から上横須賀駅まで、尾崎士郎のゆかりの場所を歩いて巡ります。
■日時 11月16日(土) 午前(予定)
■場所 名鉄西尾駅集合
■問合せ 名古屋鉄道営業部 ☎052・825・3111